

# 感染症対策強化・感染症の業務継続計画 (BCP) 策定における研修事業

社会福祉法人 AJU 自立の家

〒466-0037 愛知県名古屋市昭和区恵方町 2-15

## 助成事業の概要

障害福祉サービス等報酬改定 (令和 3 年度) によって、「感染症や災害への対応力強化を図る観点から、感染症対策や業務継続に向けた取り組み、災害に当たった地域と連携した取り組みを強化する」との指針が示されました。

その中で感染症や災害が発生した場合でも、必要な障害福祉サービスが継続していけるよう研修の実施が義務付けられており、AJU 自立の家の理念のもとより実態にあったサービス継続が可能な感染対策研修を従業者に実施していきたい。

2022 年度内に、感染症専門の看護師と障害当事者に協力を仰ぎ、医療的な視点・障害福祉サービス事業所の現場からの視点を盛り込んだ感染対策用の研修動画を作成する。それをデータ・DVD 化し全従業者が閲覧、報告書の提出を求め今後のサービス提供現場での活動に活かしていく。

2023 年 4 月以降オンラインデータ・DVD を活用して全従業者に対しての研修受講を進めていく。

## 事業の成果

・感染対策についての動画作成

研修「感染対策」 約 70 分

1. そもそも「感染」とは何か？
2. 「感染対策」とは何か？
3. 私たちにできること

・動画資料作成 400 部

・感染症専門の看護師に、私ども AJU 自立の家の障害当事者の支援の在り方を理解して頂くために、実際に地域で独り暮らしをしている障害当事者のご自宅に訪問し、生活状況や生活環境をみて頂いた。

実際に障害当事者と接し、生活に触れてもらうことで、いわゆる高齢者福祉の在宅支援とはまったく異なる支援方法であることを理解していただくことができた。高齢者の在宅支援と違い、独り暮らしをされている方が多く、生活環境も整っていない方がほとんどです。ヘルパーは短時間のスポット派遣ではなく、24 時間の滞在型で一日に 3～4 名のヘルパーが出入りをしているなど支援の在り方を見て頂くことで、より現場に近い感染対策の必要性を理解していただくことができた。

さらには、医療的ケアが必要な障害当事者においては、感染症は命に直結するものであり、ケアに入る前の体調管理等の意識付けや感染対策がどれだけ大事なことであるかを従業者の皆様にご伝えしていく大事な機会とすることができました。

感染対策の資料・動画作成においては、感染症とは何か？という専門的な知識や感染症にかからないための心得や対策方法、蔓延防止策を学ぶだけでなく、実際に地域で独り暮らしをしている障害当事者にも講師として協力して頂き、ご利用者様のご自宅にあるもので、どうやって感染対策を行うのかなど、実際の介助現場を想定した感染対策・蔓延防止策を検討することができました。

感染症とは何か、何に気をつけるべきか正しい理解を深めていくことで、感染症を恐れずに付き

合っていくことができるようになることで、私どもの事業目的である「社会で最も弱い立場にある人を絶対的に支えていく」ことの実現が可能になったと言えます。

## ■ 成果の広報・公表

今回の動画撮影において、講師を担って下さった看護師の方を通して、他の医療機関との繋がりをもつことができ、障害者の在宅支援における様々な課題を知ってもらう機会をつくることのできた。

報告書を 400 部作成し、従業者への資料提供だけでなく、緊急時に迅速・安全に感染症の対応・蔓延防止に対応できるよう訓練や学習会などに活用していきます。

動画や資料を活用し、従業者一人一人が日頃の生活から感染に対して意識を持ってもらえるように啓発活動にも役立てていきたいと思えます。

DVD作成を行ったことで、1回きりではなく、確認したい時、年間を通して感染症の拡大が予測される時期を想定した事前学習の機会に繋げていきます。

## ■ 今後の展開

助成金を頂いたことで、看護師はじめ講師の方にご協力頂き、従業者に対しての感染症に関する知識向上や感染症や蔓延防止に関する正しい理解を広げていくことができるようになりました。

正しい理解が身についても、どう実践していくかがとても大切であるため、実際に感染症が起ってしまった場合に、安全に迅速に対応できるように、動画学習の機会だけでなく、実際のシュミレーションを行うなど訓練の機会をとおして、安全に迅速に対応できるようにし、利用者様の生活を変わりなく支えていくことができるようにし

ていきたいとおもいます。

もし、利用者様が感染者となってしまった場合、感染者のケアに入る従業者の双方を守る体制づくりを今後も目指していきたいと思えます。

また、ご協力いただいた講師の看護師さんはじめ、医療との連携がとても重要であることもわかり、このご縁を大切に、医療従事者と連携をより深め、障害当事者が住み慣れた地域で安心・安全に生活していくことができるよう取り組んでいきたいと思えます。